

小学部 第3学年 国語科 成果報告書

令和3年11月18日(木)
サンホセ校 小学部3年2名
指導者 藤井 典子
アグアス校 小学部3年6名
指導者 茨木 浩之

1 教科 国語 単元名 「ポスターを読もう」

2 単元の目標 評価の観点

3 指導観

(1) 教材観

ここでは、ポスターを「見る」のではなく「読む」ことが目的となる。ただポスターを「見る」のではなく、どのようなことが書かれているのかを確認したうえで、2つのポスターを見比べて「誰に対して」のポスターなのか、そのために「どこに」掲示するのかの観点を持つことを学習する。そこで、自分の知らせたいことについて、「誰に対して」のものか、そのために「どこに」掲示するのかを考えてポスターを作成することになる。

(2) 児童・生徒の実態

まだまだ、全体の前で表現することが苦手な児童たちではあるが、少しずつ表現できるようになってきている。今後、オンライン上から登校できるようになると思われる。また、サンホセ校との交流も2年生のときに算数科で行っているので、楽しみにしている。

国語に関しての関心・意欲は全体的に高く、文章を書くことを楽しみにしていたり、自分でまとめたことを発表したりするなど、進んで取り組む姿勢がみられるが、定位の児童はなかなか取り組めず、大きな支援も必要である。

日本語能力に大きな差があると同時に発達障害と思われる児童も在籍しているため、相手校からの動画の内容を確認していく必要がある。また、本校からのジャムボードでの感想の伝達についても言葉の選択やパソコンのタイピングなどの指導をしていく必要がある。

4 指導計画 (全4時間)

主な学習内容及び学習活動

(1次) ポスターに書かれていることを読み取る。(1時間)

(2次) 2つのポスターを見比べて、ポスターには目的があることをつかむ。(1時間)

(3次) 目的をもってポスターを作成し、お互いのポスターを見て感想を伝えあう。(2時間)

5 本時 (4/4)

(1) 目標

目的をもって作成したポスターを見て感想を持ち、相手に伝えることができる。(思考・表現)

(2) 指導の経過

段階	時間	教師の活動 (発問・指導の工夫) 児童・生徒の反応	児童・生徒の学習活動	資料等
導入	5	T:自分たちが描いたポスターの動画を一部ずつ見せる。 T:同じように撮影した動画が届いたことを伝える。	1 描いたポスターを説明した動画を送ったことを想起する。 2 動画が送られてきたことを知る。	

展 開	3 2	T：動画を観る視点を伝える。	3 本時のめあてを知る。	
		<p>送られてきたポスターの動画を観て、「誰のために」「どこに」掲示するポスターかを確認して感想を書こう。</p> <p>T：自分たちがポスターを描いた時にどんな観点で描いたのかを思い出させる。 C：誰に見てほしいのか。 C：そのためにどこに貼るのか。 C：それで、どんなポスターにするのかを考えて描いた。</p> <p>T：必要があればメモを取ってもよいことを伝える。 T：打ち込むことに参考にしてもよいことを伝え、友だちの感想に耳を傾けさせる。 ○ローマ字入力が苦手な児童に入力の補助をする。</p>	4 動画を観る視点を確認する。 ・自分たちがポスターを描いた時に持った視点を確認する。	
ま と め	8	T：送られてきた感想を提示する。 T：送られてきた動画と感想から、自分が次に活かそうなことを書く。	5 動画を観る。 6 感想を発表する。 7 ジャムボードに打ち込む。 ・友だちの感想も参考にして、打ち込む。	8 自分のポスターについて送られてきた感想を読む。 9 振り返り。

(3) 板書計画

<p>○ふりかえり (主な振り返り)</p> <p>○サンホセ校の動画をみて。 (主な感想)</p>	<p>④「ポスターを読もう」 送られてきたポスターの動画をみて、「だれのために」「どこに」掲示するポスターかをたしかめて感想を書こう。</p>
--	---

主体的・対話的で深い学びの視点から

(4) 児童・生徒の様子

- ・自分たちと同じ観点で描いたポスターを説明する動画を観て、感想を持つことができた。
- ・普段意見交換をできない友だちと自分たちの学習の成果を発表することができ、喜んでいました。動画撮影時にも緊張感を持って取り組んでいた。

(5) 児童・生徒の振り返り

- ・誰に見てほしいかを考えてポスターを描くと、気をつけるところが違うことが分かりました。
- ・一緒に授業もしてみたいです。

① 成果

昨年度、合同で算数をする機会があったこともあり、サンホセ校の子どものことを知っていたため、撮影と動画送信、感想を送ってもらったことをとても喜んでいました。日常的に意見交換をする友達ではない友だちの別の視点からの感想は、再度作品を作りたいという意欲を高めるだけでなく、次の授業も楽しみにしていて、既に意欲が高まっている。

② 課題

年度当初は別として、その後の進度によって単元の設定が難しくなった。算数科ではトピックス、国語科では漢字の広場などを通しての交流など、単発的な学習であれば対処できるのではないかと感じた。

③ 提案（今後のオンライン合同授業での活用案・他の日本人学校や日本の学校での実践に生かして欲しいこと。）

前年度のうちに学年ごとに合同授業ができそうな単元を探しておき、事前に打ち合わせをして準備を進められるとよい。

(6) 教室レイアウト (ICT機器の配置)

